

ソフトウェアコミュニティのあるべき姿について ～SigSQAを通じて「つなぐ」を考える～

SEA SigSQA (sigsqa@sea.jp)

三輪東 (SCSK) 井関武史 (エクスジェンネットワークス)
井芹洋輝 (ASTER) 伊藤潤平 (ウィングアーク1st)
大野泰代 (RevComm) 小笠原秀人 (千葉工業大学)
小島直毅 (Adobe) 後藤優斗 (Accenture)
滝田諭 (パイオニアシステムテクノロジー)
常盤香央里 (グロース・アーキテクチャ&チームス)
山本久仁朗 (ビズリーチ)

I SEA SigSQAの紹介とFuture Presentationによせて 発表：3分

II 技術継承における問題提起 分解

発表：5分
議論：10分

III コミュニティについて 活性化 と 汎化

発表：5分
議論：10分

IV 技術継承とコミュニティ活動について 様々な「つなぐ」を考える

発表：2分
議論：10分

I SEA SigSQAの紹介と Future Presentationによせて

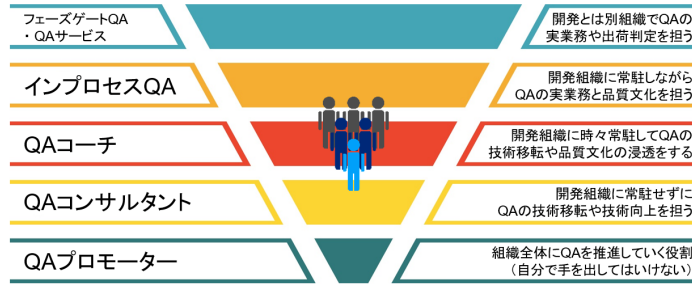
発表：3分



ただ聞くだけではなく『熱心に話し合うこと』からしか得られないものがある。
 自身にとって大きいものは「世界の中の自分」を見つめ直すことができること。
 自分の能力がどこまで通用するのか、どんな分野で先駆けているのか、同時に、自分の弱点や違和感を
 感じる部分が見えてくる。つまり、これからの成長に向けてのヒントを得ることが出来る。
 何よりも素晴らしいのは『熱心に話し合える』チームは自律的でますます力強くなれること。

『熱心に話し合う』ための道具を提供しています。ぜひ、活用してみてください！

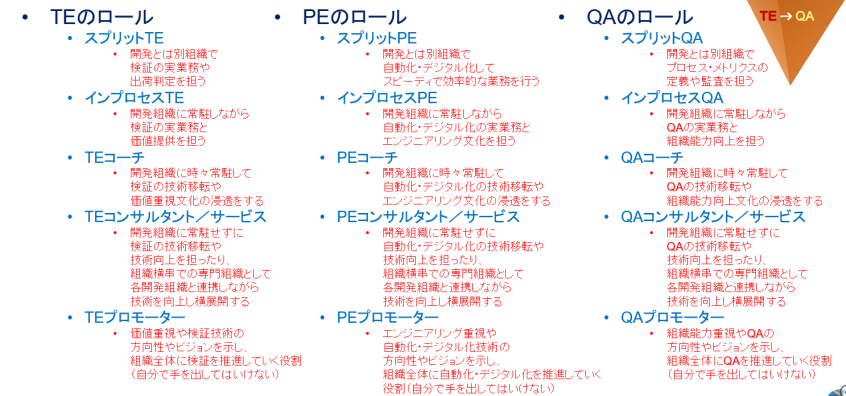
QA系のロールを整理するためにQAファンネル(2D版)を作りました



p.3

© NISHI, Yasuharu

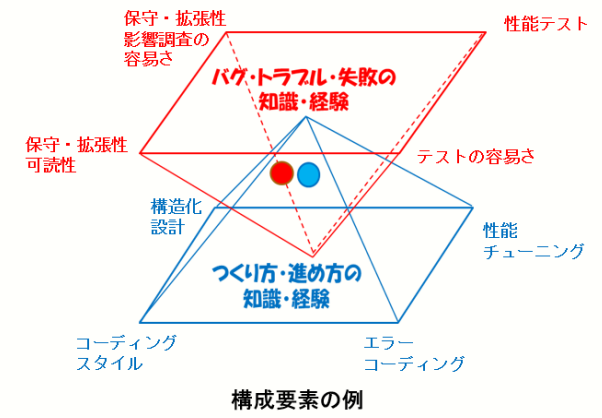
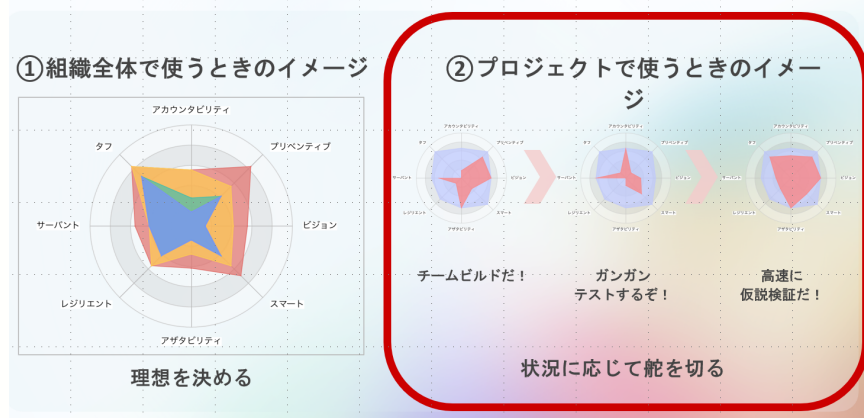
QMファンネル(3D版)の側面ごとのロール



p.10

© NISHI, Yasuharu

スタイルファインダーを...



I SEA SigSQAの紹介とFuture Presentationによせて 発表：3分

II 技術継承における問題提起 分解

発表：5分
議論：10分

III コミュニティについて 活性化と汎化

発表：5分
議論：10分

IV 技術継承とコミュニティ活動について 様々な「つなぐ」を考える

発表：2分
議論：10分

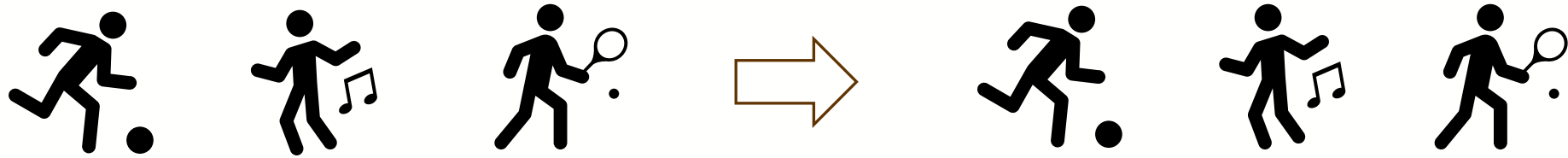
II 技術継承における問題提起 分解

発表：5分
議論：10分

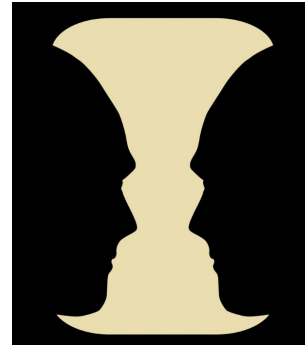
◆議論の前提事項

1. 本セッションでの技術継承スコープ
技能 → 技能 の話題、人から人へ
技能の機械化は含まない
2. 議論したいポイント
何かを人から人へ受け渡すことの難しさ
課題解決のアイデア、経験など

引き継ぎ元 と 引継ぎ先 が同じはあり得ない



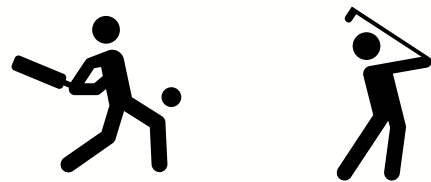
この技術は壺の . . .



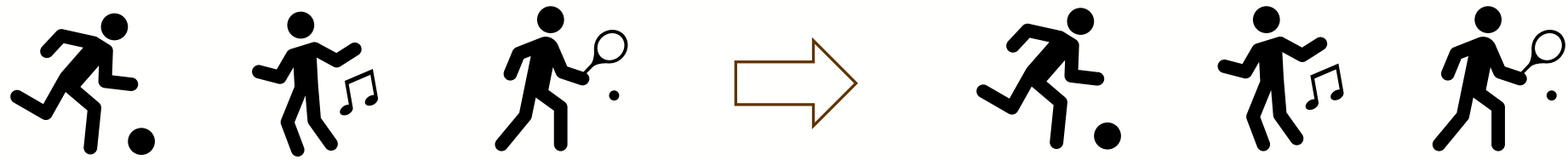
ルビンの壺

この技術は顔なのか！？

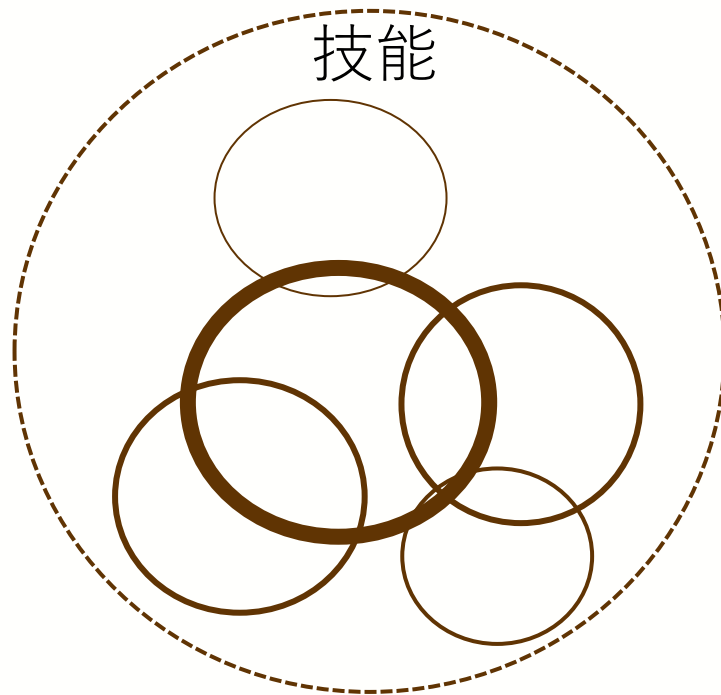
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%93%E3%83%B3%E3%81%AE%E5%A3%BA>



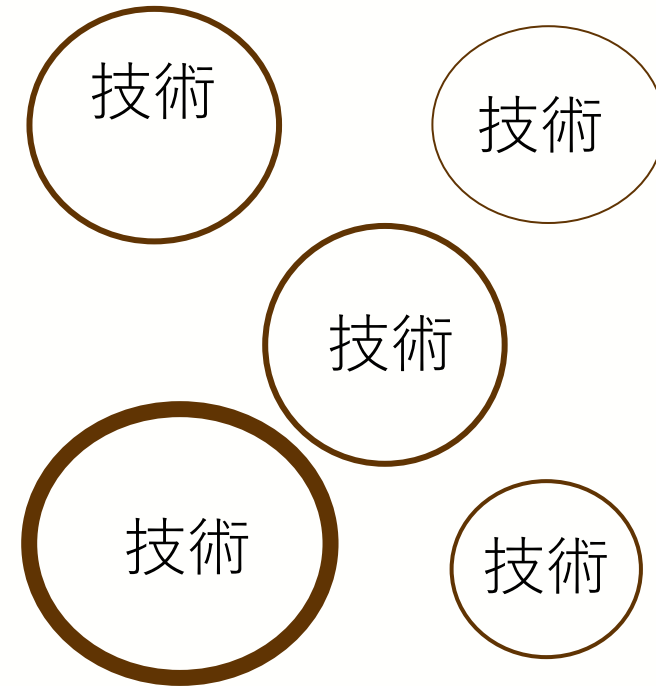
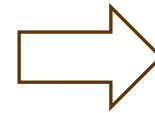
〇〇スタイルは全員異なる
受け取り側の能力でアレンジ
例) パワー系、テクニク系



正しく分解する必要がある



様々な技術で
成り立つ技能



分解しそれぞれを
伝える

今の話はどの範囲の話題ですか？
これを明確に分離して説明するのは、実はとても難しい



技術の話題は技術の軸を超えて意義などと混ざり合うこともしばしば
これらの関係性を保ちつつも分解して伝える必要もある

(例)

働きやすさ

コスト

維持管理

データ

技術

周辺技術

技術利用・運用

加工データ・情報

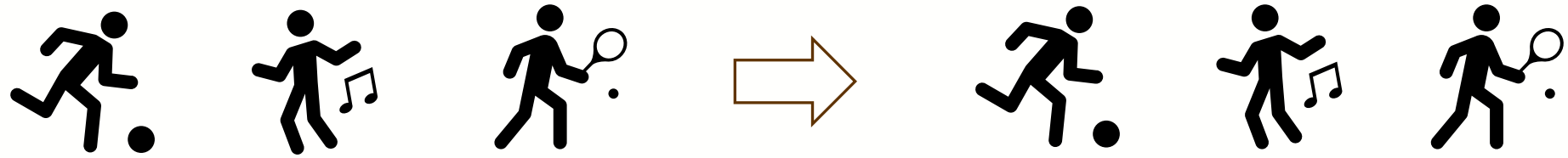
利用局面（定型・不定期）

ドメイン業務

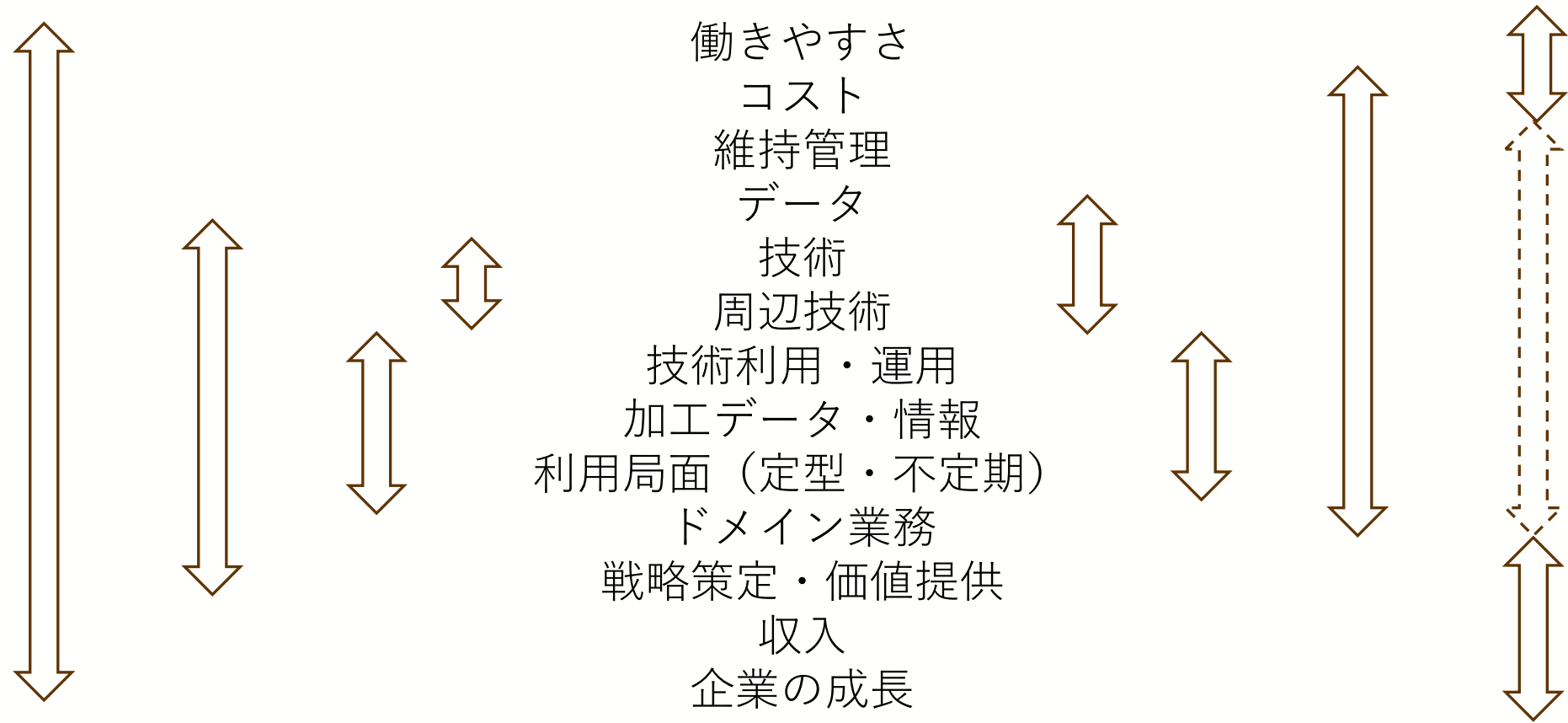
戦略策定・価値提供

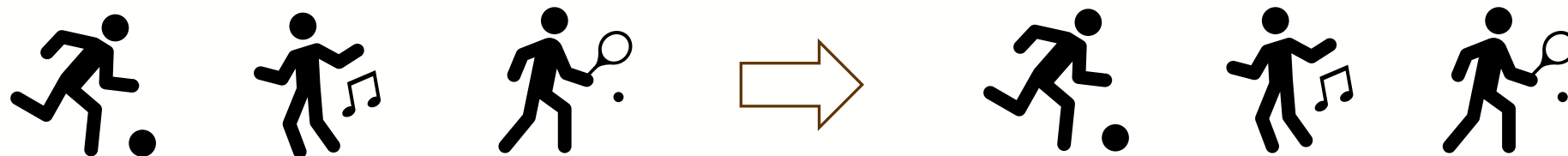
収入

企業の成長

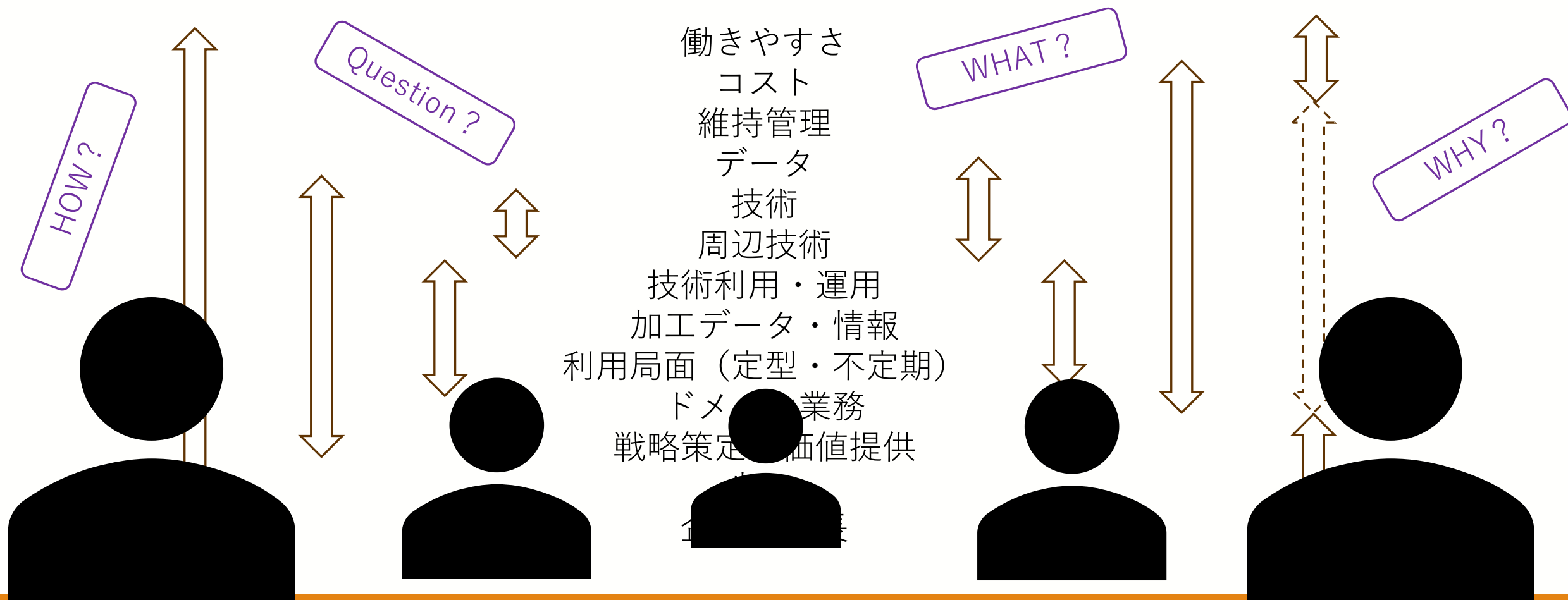


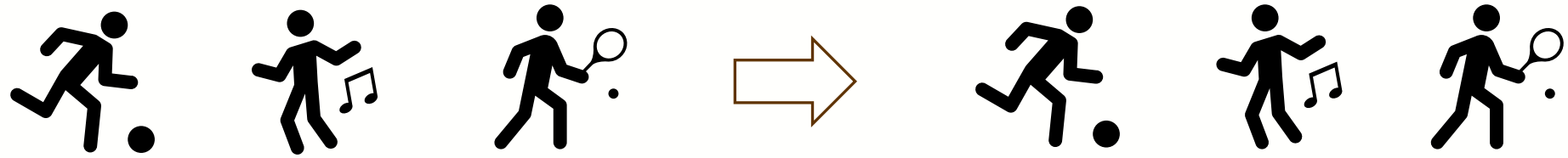
今の話題はここですよ、こんな関係性があるんですよ



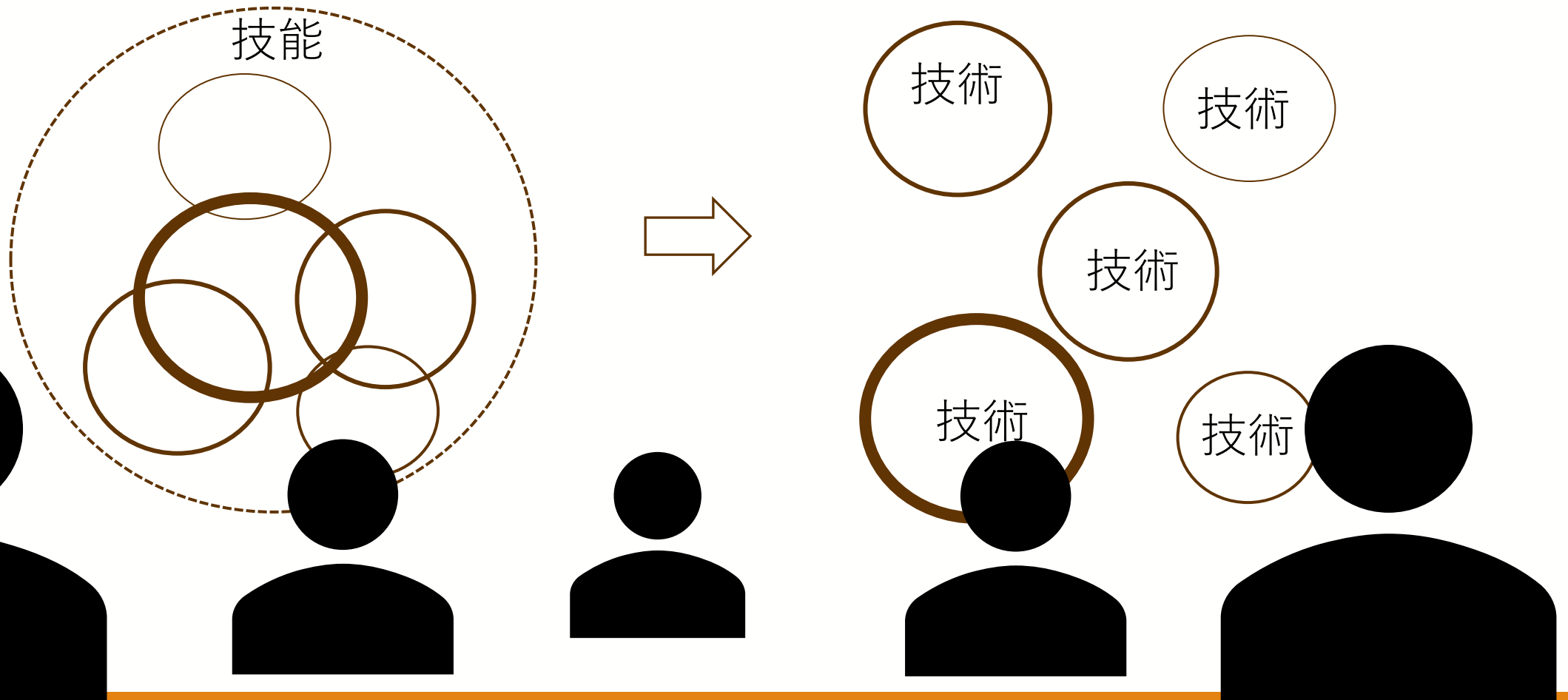


今の話題はここですよ、こんな関係性があるんですよ





多数の視点の「良き問い」を通じて『汎化』していくことが受け渡しの秘訣では？



ディスカッション 10分



Ⅲ コミュニティについて 活性化 と 汎化

発表：5分
議論：10分

コミュニティが活性化していくためには？

【雰囲気や場】

コミュニティにいかに関わりよく自主的に参加してもらえるか
自然体で誰でもギバーになれること

【しくみ・活動・価値観】

- ① 抽象度の高い活動テーマ設定
 - ② 知らない・分からないを歓迎する雰囲気づくり
 - ③ ギバースパイラルを創出する定期的な外部発表
 - ④ 駆け込み寺要素の確保
- 活動アウトプットが『汎化』しやすい環境

多様なギバーが活動を支えコミュニティを活性化する
多様がゆえに全員が先生・生徒になれる



「ギバー（人に惜しみなく与える人）」
「テイカー（真っ先に自分の利益を優先させる人）」
「マッチャー（損得のバランスを考える人）」

「テイカー」は常に、与えるより多くを受け取ろうとする。
「ギバー」はギブ・アンド・テイクの関係を相手の利益になるようにもってき、受け取る以上に与えようとする。

「テイカー」が自分を中心に考えるのに対し、
「ギバー」は他人を中心に考え、相手が何を求めているかに注意を払う。

仕事においては（中略）たいていの人が第三のタイプになる。それが、与えることと受け取ることのバランスをとろうとする「マッチャー」だ。

GIVE&TAKE「与える人」こそ成功する時代, アダム・グラント, 訳者:楠木建訳, 株式会社三笠書房, ISBN978-4-8379-5746-1 C0030

SigSQAの登壇にみる ギバースパイラルパターン

このFuturePresentationで出来たら尚嬉しい
ディスカッションの一例として

JaSST'23 Tokyo での登壇を例に

普段の集まりの雰囲気を加味しつつ
私たち SigSQA の「あるあるパターン」

【発表パート】まず全体感を共有する

SigSQA

常盤 香央里
Kaori Takaiwa

常盤 香央里



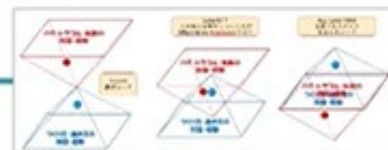
SigSQAの歩み



QA/QMファンネル



QAスタイルファインダー



QAクリスタル（仮称）

【発表パート】今回のテーマ・課題意識を共有する



持ち帰っていただきたい内容

- Whole-Team Approachを
- Agile testingやHolistic test quality保証を上手に進めるために
- スキルや知識を【つくり・使う・トラブル・失敗】の2つの視点から
- 開発とQAの垣根を超える
- どのようなスキルや知識のヒント

本年度の課題意識

2021年は「QA/QMファンネル」

QA/QMとしての体制づくり、QA関係者の現状把握・キャリア形成づくりにも役立てるツールを提案

2022年は「QAスタイルファインダー」

QA組織・担当者の特性・現状把握・今後の育成ポイントの検討などに利用しつつ、プロジェクト・組織のフェーズや成熟度に合わせて、どのような戦略をたてるかを検討するツールを提案

ここまではあくまでもQAとしての立場・役割での話が中心

実際の現場においてより良い開発を行うためには、**開発者・PO・PM等とどのように「相互理解」してチーム一丸となり進めるかが課題に**



【発表パート】 具体例やポイントを共有する

SigSQA

小島 直毅
Naoki Kojima

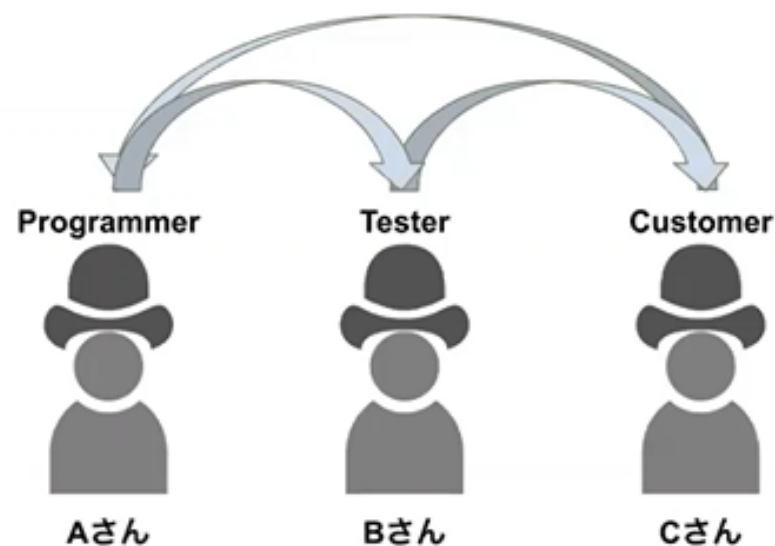
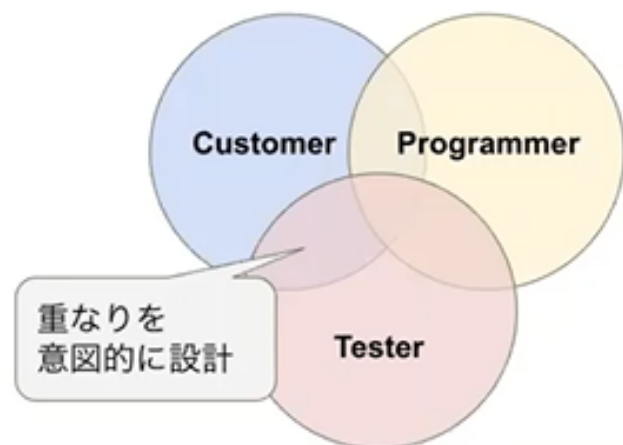


Naoki Kojima

Whole-Team Approachとは何か？

Whole-Teamな状態

≡ 職種間で役割・責任を共有している



【発表パート】 具体例やポイントを共有する

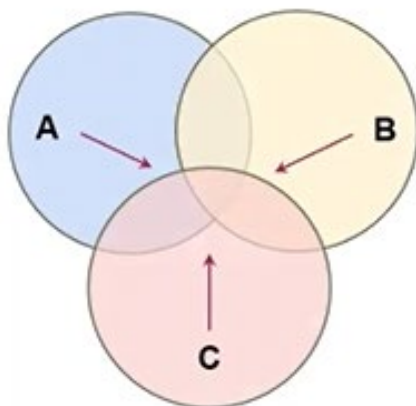
SigSQA

NOVA

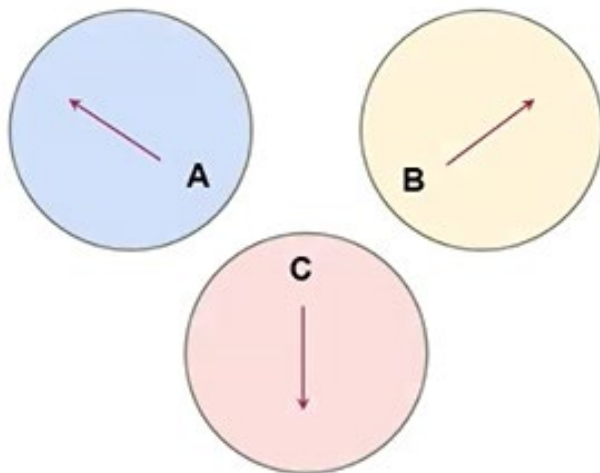
三輪 東

Akuma Mitsu

三輪 東



普通にやっても
重なりが出やすいものは
MECEで考えるべき



気づくと分離していく
ものは意図的に
ダブリを作るべき

【ディスカッション】

三輪さんがポジティブな感想をいう

いやー素晴らしいですね
〇〇さんが言うといいねえ～

SigSQA

SCSK

三輪 東
Azuma Miwa

三輪 東



【ディスカッション】

大野さんが具体的な体験を語る

私が前に入った現場で...
こんな状態になっていて...
こんな風にしました

SigSQA

RecComm

大野 泰代
Yasuyo Ohno

大野 泰代



【ディスカッション】

みんなが問いかけで理解を深める

(こういう)ことだったんですか？

それはもともと
仕組みがあった？

【ディスカッション】

みんなが問いかけで理解を深める

(こういう)ことだったんですか？

それはもともと
仕組みがあった？

どんなことを
意識しました？

大変だなーと
感じたけれど
どうしてできた？

【ディスカッション】

みんなが問いかけて理解を深める

(こういう)ことだったんですか？

それはもともと
仕組みがあった？

どんなことを
意識しました？

これは誰ともなく、
常に起きているアクション

大変だなーと
感じたけれど
どうしてできた？

【ディスカッション】

いせきさんが自分の話に紐づける

これって〇〇みたいなことも
あったりして、
××が大事になるんですよね

SigSQA

エクスジェンネットワークス

井関 武史
Takefumi Iseki

iseki



【ディスカッション】

じゅんぺーさんが組織面を話す

うちの組織だと...っていうのを
つくったりしていますね

マネージャー的には...だったり
するんですよねー

SigSQA

ウイングアーク1st

伊藤 潤平

Jumpei Ito

Jumpei Ito



【ディスカッション】

くにおさんが他の事例を話す



〇〇さんの場合は××で
△△さんの場合は□□でしたけど、
昔いた現場では◆◆みたいなことも
あったり
Web系だと●●ということも、
よくあるパターンかなと

【ディスカッション】

ごとうさんが経験をたずねる

僕経験が浅いんで分からないんですけど
〇〇って難しいもんなんですか？

（他の人の説明を聞いて）
ああーなるほどなるほど
××だから△△なんですね

SigSQA

コミュニケーション

後藤 優斗
Yuto Goto

後藤優斗



【ディスカッション】

にしさんが理解を語る

SigSQA

電気通信大学

西 康晴

Yasuharu Nishi

NISHI, Yasuharu



〇〇さんが話してくれたように...
××は□□なんですよ
でも実際は▽▽で△△だから
●●さんはそれを◇◇からやっていて
■■になっているんですよ

【ディスカッション】

かおりっとが素朴な疑問をいう

ちょっと■■■っていうのが
よくわからなかったんですけど

それだと(こういうことって)
ないんですか？

SigSQA

グロース・アーキテクチャチーム

常盤 香央里

Kaori Tokiwa



常盤 香央里

【ディスカッション】

小島さんが汎化してくれる



いわゆるこれって
〇〇で××なんですよ
これを▼▼していくと
□□になっていくんですね

実際は...

(こうし
たんて

それはもとも
仕組み

いわゆる
これって〇〇
ですよ

大変だなーと
感じたけれど
どうしてできた？

どんなことを
意識しました？

参加者みんなでのディスカッションが高速で続き...

それはもとも
仕組み

大変だなーと
感じたけれど
どうしてできた？

どんなことを
意識しました？

〇〇さんの××で
▽▽さんの...

いわゆる
これって〇〇
ですよ

各自の悩みを解決するヒントが見つかったり
モデル化が進んだり

(こうし

(ーシ

それはもとも
仕組み

大変だなーと
感じたけれど
どうしてできた？

どんなことを
意識しました？

いわゆる
これって〇〇
ですよ

〇〇さんの場合は××で
▽▽さんの場合は...

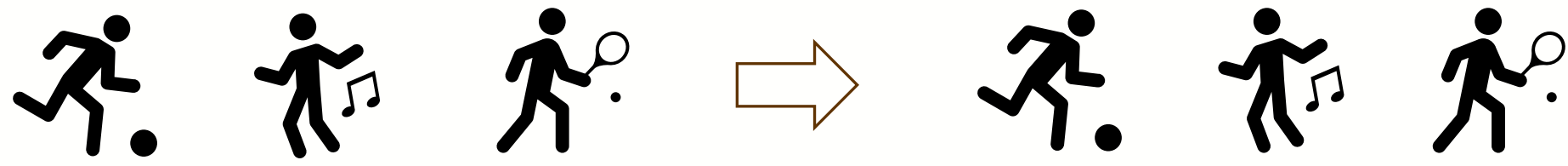
雰囲気伝わりましたか？

ディスカッション 10分



IV 技術継承とコミュニティ活動について 様々な「つなぐ」を考える

発表：2分
議論：10分



ギバー

コミュニティ
活性化

多様性

良き問い

汎化



ディスカッション 10分

